□作品紹介□

—賛助作品—

技術顧問　寺本蒼玄先生

『松間新月を照らす（羌虬緑）』
「松間照新月（松の間から三日月が出た）」
明末ロマン派の傅山の行を押し流す力強さを表現してみました。

『體適（白楽天）』
「體適（からだ[身體]に適すること）」
清末の趙之謙の雰囲気で力強く堂々と仕上げました。

一、浅野彰浩

臨書　楷書『魏霊蔵薛法紹造像記』全紙

「魏霊蔵薛法紹夫霊跡誕遘必表大之迹玄功既敷亦標希世之作自雙林改照大千懐綴暎之悲慧日潛暉晗生衒道慕之痛是以應眞悼三乗之靡憑遂騰空以刊像爰暨下代茲容厥作」

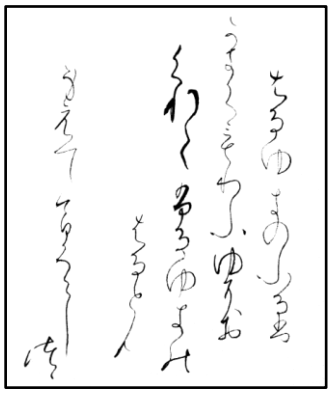
像に彫られた力強い造像記の文字を自分なりに筆で表現しました。

二、東佳央里

臨書　かな『升色紙　伝藤原行成筆』

「はるゆきのふるひかきくもりふゆにおくれてふるゆきのはるともみえで今日くらしつゝ（以下略）」

以前色紙作品として挑戦した升色紙を、秋冬の歌を選んで今回は軸作品にしました。升色紙のもつ細い線の美しさ、そして細い線が細いからこそ引き立つ太い線の美しさを表現できるように頑張りました。



三、天艸開

臨書　行書　空海『風信帖』半切

「風信雲書。自天翔臨。披之閲之。如掲雲」

空海の風信帖です。字の繋がりを意識して臨書しました。「風」の字に納得せずに苦戦しましたが、まとまりよく書けたと思います。

四、天艸開

臨書　楷書　褚遂良『雁塔聖教序』半切

「大唐三蔵聖教序。太宗文皇帝製。蓋」

褚遂良の雁塔聖教序です。字の大小を揃えるのに苦心しましたが、一字一字をつめて書くことができ、良い経験になったと思います。

五、伊田唯果

臨書　行書『李思訓碑』半切

「而聞。己十有四。補崇文生。舉經明行脩」

生のたくましさに惹かれてこの作品を選びました。書道初心者で難しいことばかりでしたが一生懸命練習しました。未熟な作品ですがご批評のほどよろしくお願いします。

六、植島　寛之

臨書　隷書『史晨後碑』半切

「空府竭（ツくす）寺咸（カン）俾（ヒ）來觀幷（アワせる）畔（ハン）官文學先生執事」

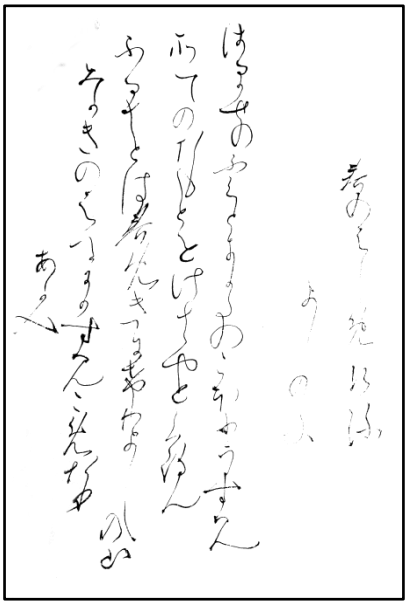
僕は楷書しかできない人ですが、敢えて隷書を書くことで何か見いだせればと思い、隷書に挑みました。楷書チックな隷書になるだろうなと思っていたのですが、ところがどっこい、妙にかわいらしくなってしまいました。

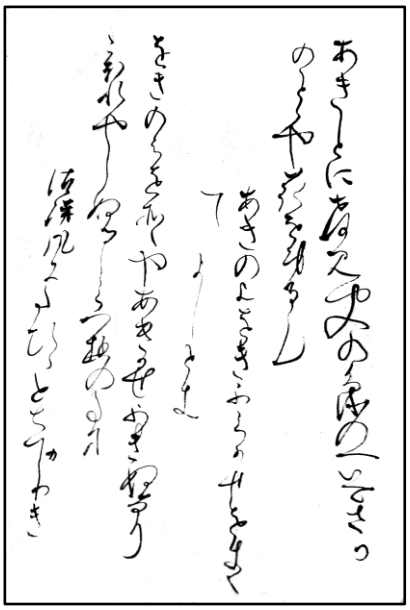
七、内村実穂

臨書　かな『香紙切』

「春のは(者)じめ(免)こ(古)ろ(路)よしのぶ
はるか(可)ぜ(世)のふく(久)とき(支)が(可)た(多)のこほ(保)り(利)うすみ」

張りがあり鋭いけれど丸みの柔らかな線。自由にクルクルと動くのに力強さもあわせ持つ線。そんな雰囲気に惚れました。自分の手から作り出すことはとても難しく、けれどその練習はとても楽しいです。





八、大泉　陽輔

臨書　隷書『乙瑛碑』半切

「請置百石卒史人主守廟直須報謹」

互いに主張し合う作品が林立する会場で、寒いほど静かな作品がただ一点凛と佇んでいる。書道歴半年の素人が希求するあまりにも浅はかな理想です。

九、小野愛実

臨書　行書　文徵明『緑陰帖』半切

「物凋零盡獨有荅松領歳華江城秋」

文徵明の、勢いのある美しい字形が好きです。まだまだ未熟な作品ですが、ご批評よろしくお願いします。

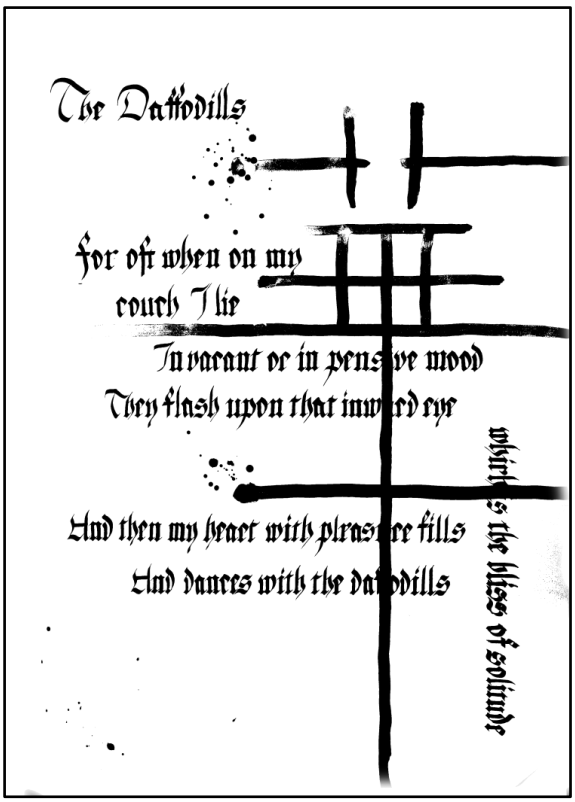
十、大庭諒介

創作　Fraktur　『華』　781×1051　287×378　(mm)

「華　The Daffodils　For oft, when on my couch I lie/In vacant or in pensive mood/They flash upon that inward eye/Which is the bliss of solitude/And then my heart with pleasure fills/And dances with the daffodils.（日本語訳：水仙　心うつろに、或いは物思いに沈みて、われ長椅子に横たわるとき、独り居の喜びなる胸の内に、水仙の花、しばしば、ひらめく。わが心は喜びに満ちあふれ、水仙とともに踊る。）」

情景を嘆くことなかれ。追憶の〝華〟は咲き誇るべし―

隷書の素朴さと英字の絢爛さを掛け合わせ、新たな作品となることを目標とした。華の直線的な造形と英字列が群となり、交錯していく。そのことが如何に空間に動的変化を与え得るのか。色彩と装飾は詩文のイメージから創作した。英語詩は *William Wordsworth*『水仙』より抜粋。

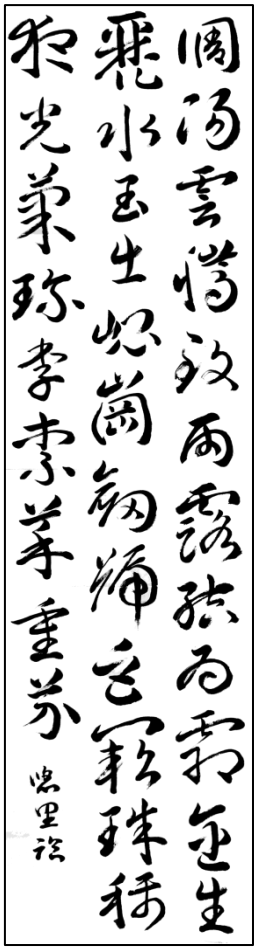


十一、菊池悠里

臨書　草書　智永『関中本千字文』半切

「…調陽。雲騰致雨。露結為霜。金生麗水。玉水崑崗。劒號巨闕。珠稱夜光。菓珍李柰。菜重芥…」

智永の千字文の草書部分に挑戦しました。整った字形は保ちつつ、全体として退屈な作品にならないように、構成や文字の大小で変化を持たせるよう工夫しました。たくさんのアドバイスを頂いてできた作品です。



十二、木谷亮太

創作　前衛『破・生』全紙

「破生」

大きな嵐のなか、つぶれそうになりながらも確かにある小さな命を表現しました。破を転じて生と為す、そんな願いを込めて。

十三、小松聡子

臨書　書体　行書『李思訓碑』半切

「考中上又更右武衛大將軍且師丹」

「大将軍」の格好よさに一目惚れしました。力強さと美しさを表現したいと思いながら書きました。ご批評よろしくお願いいたします。

十四、近藤和歌子

臨書　行書　董基昌『邠風図詩巻』半切

「帛菽粟真文字委宛驚開先代蔵詩」

パンフレット用作品提出締め切り直前に法帖を変えることに・・・。見せ場の創り方もわからず書き込みも不十分ですが、線や字のつながりを意識しながら書くのは楽しかったです。今後は作品の創り方も学びながら、計画的に書いていきたいです。

十六、佐藤綾美

臨書　行書　米芾『賀鑄帖』半切

「再啓賀鑄能道行樂慰人意玉筆格十」

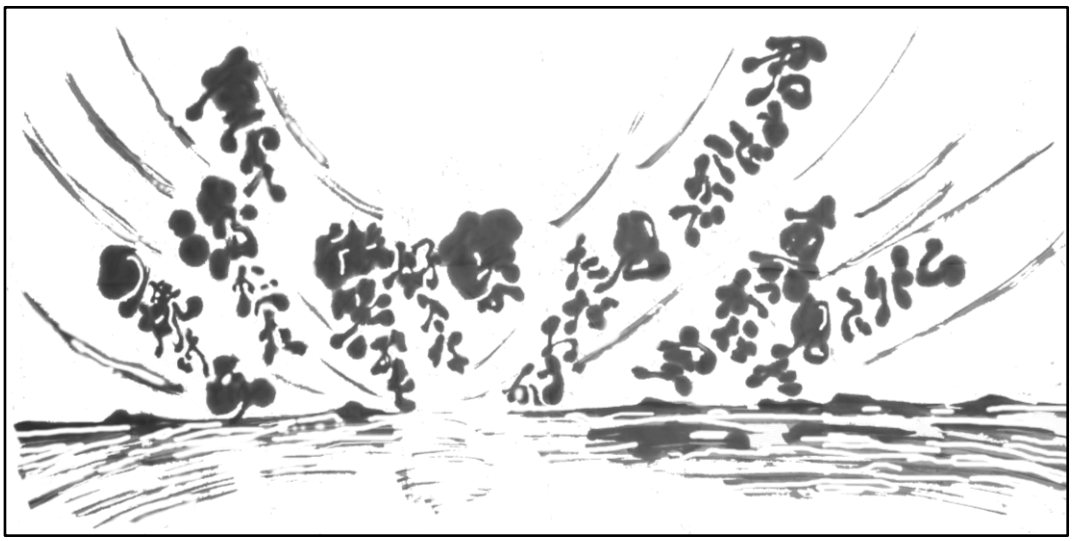
力強い行書を書いてみたいと思って挑戦しました。起筆や文字の傾き加減を表現するのに苦労しました。ご批評よろしくお願いします。

十五、杉本綾香

臨書　楷書　楮遂良『千字文』半切

「致雨露結爲霜金生麗水玉出崐崗」

嬉しい初作品です。初心者なりに試行錯誤しつつ、もがきつつ書きました。スタイリッシュな雰囲気の作品にしたかったのですが…字のバランスや細い線が難しかったです。ご批評よろしくお願いします。



十七、鈴木新人

創作　調和体　全紙横

『真っ赤な空を見たろうか』

「一人で見た真っ赤な空、
君もどこかで見ただろうか
僕の好きな微笑みを
重ねて見上げた夕焼け空」

BUMP OF CHICKEN の「真っ赤な空を見たろうか」を題材に調和体を書きました。やさしく、そして凛として見る空をスケール大きく描くことへの挑戦です。途中であらわれるベル（?）のような音を淡墨の点のにじみに見立ててみたのですが、うまく表現できているかははなはだ疑問です。曲を聞いたことがない人は、これを機に聴いてみるのもいいかもしれません。

十八、鈴木貴也

臨書　草書　王羲之『遠宦帖』半切

「子亦多遠宦足下兼懐並數問不老婦」

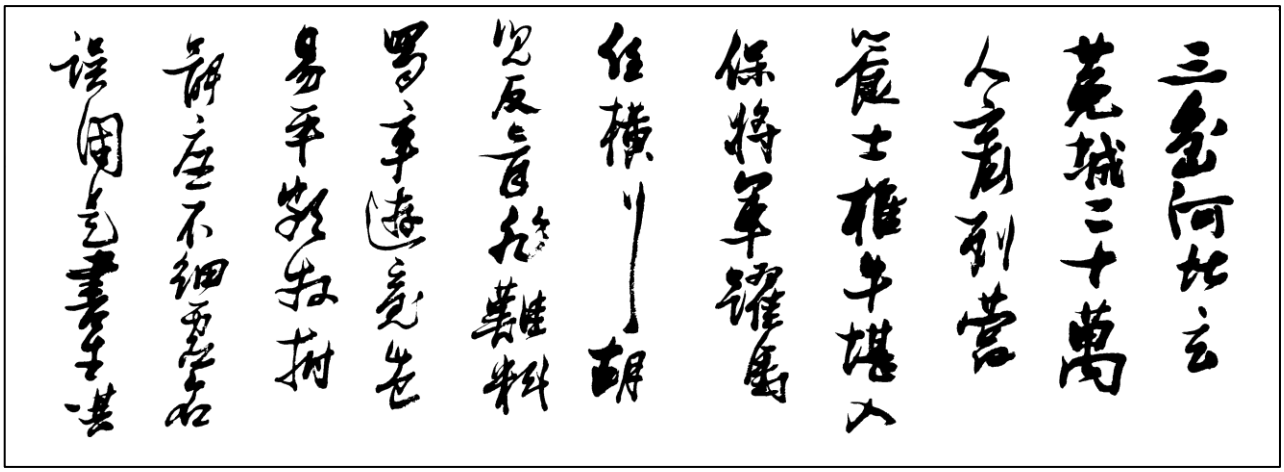
今回初めて草書に挑んでみました。楷書と行書の経験しか持っていなかったため、独特の線を持つ草書の臨書には一苦労しましたが、書いていて楽しく感じられました。ご批評よろしくお願いします。

十九、鈴木遼

臨書　楷書　趙孟頫『玄妙観重修三門記』半切

「文。深念前功。是畾是究。時則有夫人」

四角のマスに次々と並ぶきれいな字に惹かれこの法帖を選びました。線の太さなどに気を付けながら書いたつもりです。ご批評よろしくお願いします。



二十、高垣茜

臨書　行書

褚遂良『感遼事作六首巻』半切1.5枚分

「三岔河北玄菟城　二十萬人齊列營
饗士椎牛堪入保　將軍躍馬任横行
胡兒反骨非難料　蜀卒遊魂豈易平
頗牧拊髀憂不細　虚名誤國是書生」

其一

三韓烽火日縱横　太白秋高胡騎輕
實藉公卿多廟算　虚憑山海作關城
恩深養士先皇帝　地重定都古北平
歎息詞人空膽氣　不知捫舌是譚兵

其二

学部生最後の作品。昔は頑張ることはすなわち力むことだと思い込んでいましたが、力を抜くことも大事だと思えるようになりました。（ただし抜くのは力であって気持ちではありません。）　作品にも表れている気がします。

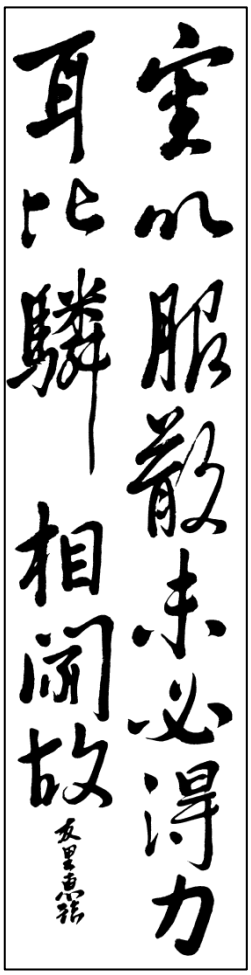
二十一、武井友里恵

臨書　行書　王献之『姑比日帖〈快雪堂帖〉』半切

「審以服散未必得力耳比驎相聞故」

二回生から入部した私にとって、小作品以外では初めての作品になります。いろんな人から意見をいただきながらも、自分らしく仕上がった作品だと思います。

臨書というには未熟すぎるかもしれませんが、ほんの少しでも気に入ってもらえたら嬉しいです。



二十二、多門千早

臨書　行書　李邕『李思訓碑』半切

「長史華陽縣開國公　贈寧州刺史諱」

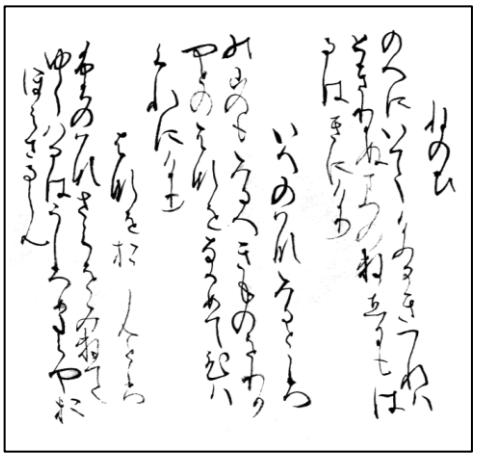
二行作品に挑戦しました。文字と文字の空間の広さを揃えるのに苦労しました。また鋭い線質を出すのも難しかったです。ご批評よろしくお願いします。

二十三、寺田実穂子

臨書　行書　歐陽詢『行書千字文』半切

「往秋収冬蔵閏余成歳律呂調陽雲」

蔵や成などにある右下がりののびやかな画が気に入り選びました。全体的にシャキシャキとした雰囲気が出てたらいいです。ご批評お願いします。



二十四、時藤大典

臨書　かな『中務集』巻子

「ねのひ/のべにいでてけふひきつれば/ときわかぬまつのすえにもは/るはきにけり/いへのはなみるところ/の山のもみるべきものをわが/やどのはなをながめてひは/くれにけり/はなをおしむところ/ふぢのはなさくをみすてて/ゆくはるはうしろめたくやお/ぼえざるらん（以下略）」

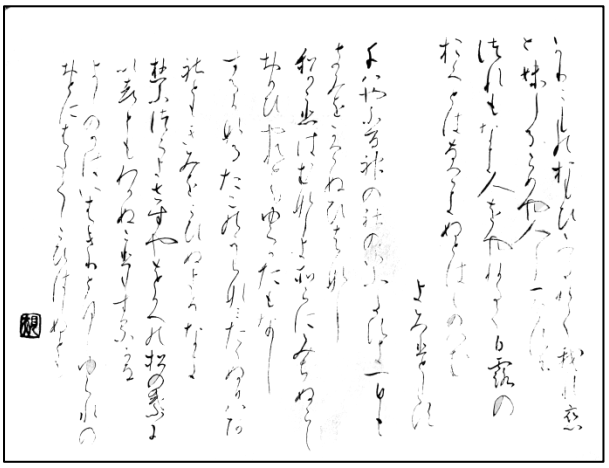
中務集の始めの二枚と最後の二枚を臨書しました。西行らしい、スッキリと、かつゆるやかに変化する流れはとても難儀しましたが、今後かなのみならず漢字や調和体の作品を作る上でとても勉強になりました。

二十五、富崎友理子

臨書　楷書　顔真卿『多宝塔碑』半切

「厭俗自誓出家禮蔵探経法華在手」

顔真卿の書体の厳正で緊密な雰囲気に魅了されました。揺るぎのない力強い一点一画で構成される一つ一つの文字それぞれが、強靭な生命力を放っているように感じられます。私も一筆ごとに緊張感を持ち、厳格な気持ちで製作に取り組もうと努めました。



二十六、中田真規

臨書　かな『元永本古今集』半懐紙

「かりごものおもひみだれて我れ恋と
妹しるらめや人しつげずは
つれもなき人をやねたく白露のおくと
はなげきぬとはしのばむ
よみびとしらず（以下略）」

見どころが「や」である作品になっていれば・・・と思います。筆運びのスピードに苦心しました。ご批評よろしくお願い致します。

二十七、西村有希子

臨書　行書　董基昌『日月詩巻』半切

「仙人携我搴玉英壇上夜半東方明」

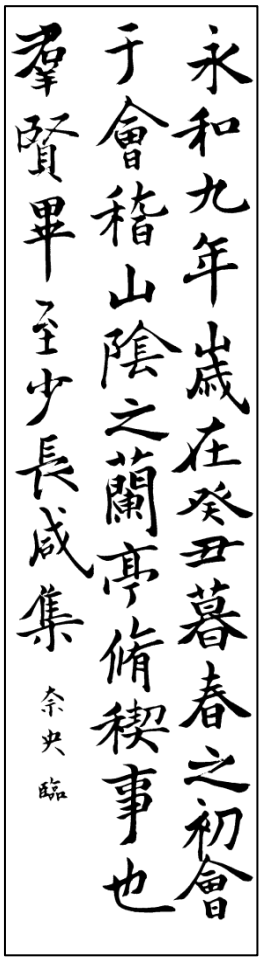
董基昌の臨書にリトライしました。筆を変えたり、構成を変えたりで非常に悩んだ作品ですが、その分いいものに仕上がっていると思い…たいです。

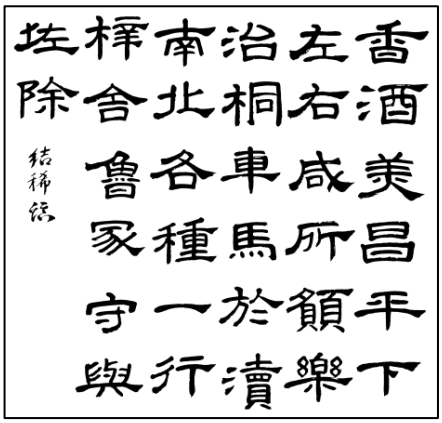
二十八、橋詰奈央

臨書　行書　王羲之『蘭亭序』半切

「永和九年歳在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也群賢畢至少長咸集」

漢字に挑戦したい、そんな思いで数年ぶりに書いた漢字作品です。全体的にスマートな臨書作品に仕上がるように練習をしてきましたが、一字一字は至らない所が多いと思います。どうかご批評よろしくお願いします。



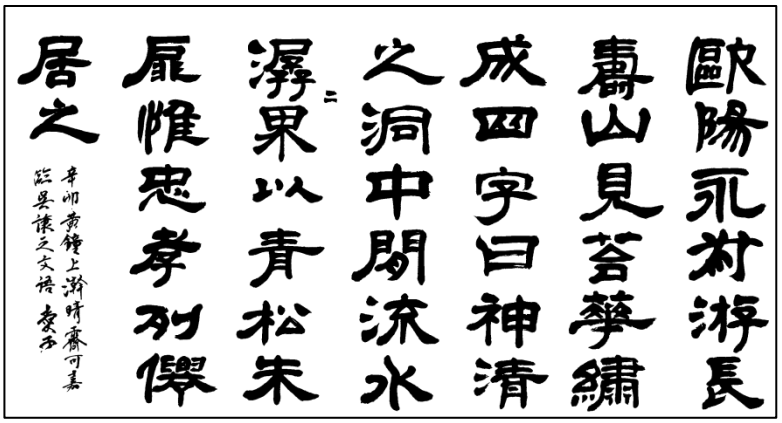


二十九、藤井結稀

臨書　隷書『史晨後碑』全紙 1/2

「香酒美昌平下　左右咸所願樂　治桐車馬於瀆　南北各種一行　梓舍魯冢守與　佐徐」

今回は隷書の雰囲気に合わせて全紙 1/2 で書いてみました。隷書とは何なのかという問題にぶつかりながら一生懸命練習しました。まだその答えが見つかったわけではないので、ご批評宜しくお願いします。

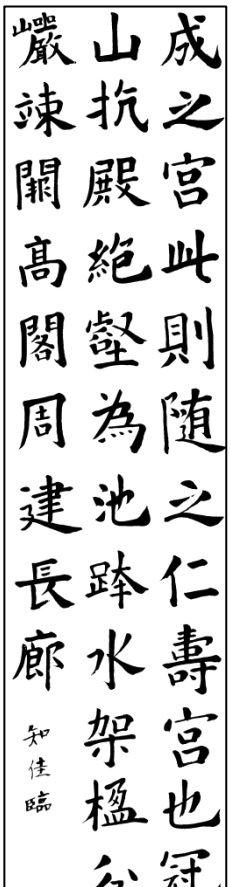


三十、藤島愛子

臨書　隷書　呉熙載『隷書文語横披』全紙横

「歐陽永叔游長壽山。見苔華繡成四字。曰神井清之洞。中閒流水潺々。界以青松朱扉。惟忠孝列僊居之。」

まだまだ練習量が足りないです。もっと研究していい作品にしていきたいです。

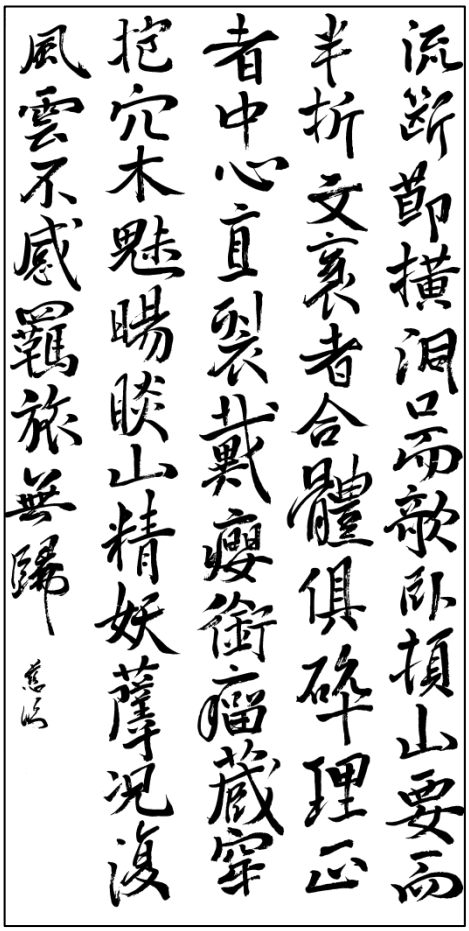


三十一、真殿　知佳

臨書　楷書　歐陽詢『九成宮醴泉銘』半切

「成之宮此則隋之仁壽宮也冠山抗殿絶壑爲池跨水架楹分巖竦闕高閣周建長廊」

すっきりとした格好いい感じを出せるように頑張りました。ご批評よろしくお願いします。



三十二、水谷慈

臨書　行書　褚遂良『枯樹賦』全紙

「流断節横洞口而歌臥頎山要而半折文衰者会體俱砕理正者中心宜裂載瘻銜癯藏穿抱穴木魅暘睒山精妖薩況復風雲不感羈旅無」

最初は綺麗で鋭い雰囲気に惹かれました。でもよく見るとアンバランスで重厚感のある文字で、なんて我儘な作品！？という印象に。我儘に、愉しんで書きました。ご批評のほど、よろしくお願いします。